

「空中茶室」シンポジウム

歴史街道

お茶の京都

Discover Premium Green

～昭乗×遠州の八幡で生まれた茶文化を今に伝える～



新・空中茶室「そら」シンポジウム会場にて展示予定

国宝 石清水八幡宮が鎮座する「男山」にかつて浮かぶように佇んでいた空中茶室「閑雲軒」松花堂昭乗と小堀遠州が八幡で出会い手掛けた「茶文化とおもてなしの心」時間と空間を超えて未来に想いを馳せる——「これからの空中茶室」について共に考える——

平成30年

日時

1月21日(日) 午後1時30分～午後4時
(開場:午後1時)

場所

八幡市文化センター小ホール
京都府八幡市八幡高畑5番地の3

定員

300名 参加無料(当日先着順)

基調講演



北川原 温 氏

(東京藝術大学教授)

日本を代表する建築家のひとり。2015年ミラノ万博日本館で建築プロデューサーを務め日本史上初の金賞を受賞するなど世界を舞台に活躍中。

世界を旅する茶室「空中茶室」
～時間×空間のトポロジー～

◆パネルディスカッション

パネラー 北川原 温 氏

日向 進 氏 (京都工芸繊維大学名誉教授・松花堂美術館学芸顧問)

鍛代 敏雄 氏 (東北福祉大学教授・石清水八幡宮研究所主任研究員)

小森 俊寛 氏 (元(公財)京都市埋蔵文化財研究所主任研究員)

ゲスト 田中 恆清 氏 (石清水八幡宮宮司)

コーディネーター

中嶋 聞多 氏 (信州大学特任教授・地域活性化学会会長)

同日開催

事前申し込み不要

1月21日(日)
午前10時30分～11時30分

当日、午前10時30分に男山山上展望台に集合
京阪電車「男山山上駅」(男山ケーブル線)すぐ

空中茶室「閑雲軒」跡
現地説明会

瀧本坊「閑雲軒」とは、どのような茶室だったのか—

江戸前期に建てられ、焼失してしまった空中茶室「閑雲軒」。発掘調査を担当した小森俊寛氏に現地で解説いただき、今はなき「閑雲軒」に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

宇治茶のふるまい・販売

シンポジウムの前後に、お茶の京都プレミアム茶のふるまい、販売を行います。

お茶の種類は煎茶、玉露。(抹茶は販売のみ)それぞれ「お茶の京都博」のための特別選考会で選ばれたプレミアムな宇治茶です。
主催:お茶の京都博実行委員会



同時開催



「空中茶室」シンポジウム

平成30年
日時 **1月21日(日)** 午後1時30分～午後4時
(開場:午後1時)
場所 **八幡市文化センター小ホール**
京都府八幡市八幡高畑5番地の3
定員 **300名参加無料(当日先着順)**

書道、絵画、茶道などあらゆる芸術に秀でた文化人、松花堂昭乗。
「綺麗さび」の美意識を生んだ城づくりの名手、小堀遠州。
江戸時代に2人が八幡で出会い、石清水八幡宮がある男山に建てられた懸け造りの空中茶室「閑雲軒」。
この今はなき「閑雲軒」について、市内外の人々に広く知ってもらい、松花堂昭乗や小堀遠州が込めた想いや八幡の茶文化のあり方を考えるとともに、空中茶室復元の夢を市民と共有するシンポジウムを開催します。

講師紹介



きたがわら あつし
北川原 温 氏
(東京藝術大学教授)

1951年生まれ。建築設計、都市計画の分野において数多くの実績があり、2005年ベルリンにヨーロッパ事務所を開設、2015年ミラノ万博日本館(120か国以上が参加。日本が史上初の金賞受賞)の建築プロデューサーを務めるなど国際的にも活躍する一方、裏千家国際茶道文化協会「宙軒」を設計するなど伝統に革新をもたらす活動も行う。母校の東京藝術大学教授として教鞭をとりながら、公共・民間の多くのプロジェクトに参加、日本を代表する建築家の一人として知られ、日本建築学会賞、日本建築大賞、村野藤吾賞、アルカシア賞ゴールドメダル、アメリカンアーキテクチャープライズ金賞、日本芸術院賞などを受賞している。

パネラー



ひゅうが すずむ
日向 進 氏
(京都工芸繊維大学名誉教授・松花堂美術館学芸顧問)

1947年生まれ。京都工芸繊維大学名誉教授。工学博士。八幡市立松花堂美術館学芸顧問、茶の湯文化学会理事。専門は日本建築史。主な著作は「近世京都の町・町家・町家大工」(思文閣出版)、「茶室に学ぶ 日本建築の粋」(淡交社)など。「特定非営利活動法人 古材文化の会」の会長として古建築や古材の保存と活用にも取り組む。



きたい としお
鍛代 敏雄 氏
(東北福祉大学教授・石清水八幡宮研究所主任研究員)

1959年生まれ。東北福祉大学教育学部教授。博士(歴史学)。専門は日本中世史。社会史、宗教史、思想史、商業史、交通史など多岐にわたる。主な著作は「中世後期の寺社と経済」(思文閣出版)「神国論の系譜」(法藏館)「戦国期の石清水と本願寺」(法藏館)「敗者の日本史11 中世日本の勝者と敗者」(吉川弘文館)「戦国大名の正体」(中公新書)など。國學院大學大学院客員教授・東洋大学大学院兼任講師を歴任。現在、石清水八幡宮研究所主任研究員を兼任する。



こもり としひろ
小森 俊寛 氏
(元(公財)京都市埋蔵文化財研究所主任研究員)

1949年生まれ。専門は考古学。(公財)京都市埋蔵文化財研究所主任研究員として京都の発掘調査や土器・陶磁器の編年研究を行う。2010年から八幡市教育委員会文化財保護課主幹として石清水八幡宮境内の発掘調査を担当。主な著作は「桂離宮茶室等整備記録」(共著・宮内庁)、「平安京提要」(共著・角川書店)、「京から出土する土器の編年の研究—日本律令的土器様式の成立と展開、7~19世紀—」(京都編集工房)、「石清水八幡宮境内発掘調査報告書」(共著・八幡市教育委員会)など。

ゲスト



たなか つねきよ
田中 恆清 氏
(石清水八幡宮宮司)

1944年生まれ。石清水八幡宮宮司、神社本庁総長、京都府神社庁長、世界連邦日本宗教委員会会長。一般社団法人八幡市観光協会理事長。かつて空中茶室「閑雲軒」があった男山に鎮座する石清水八幡宮に代々宮司を務める田中家として奉職しており、2001年に宮司に就任する。主な著作は「神様が教えてくれた幸運の習慣」(幻冬舎)、「謎多き神 八幡様のすべて」(新人物往来社)など。

コーディネーター



なかじま もんた
中嶋 聞多 氏
(信州大学特任教授・地域活性化学会会長)

1954年生まれ。信州大学特任教授、(一財)地域活性化機構理事長。専門は応用情報学。とくに近年は、地域活性(地方創生)の理論と方法、地域ブランド、地域イノベーションなどの研究に取り組む。主な著作は「情報システム学への誘い」(培風館)、「飛耳長目一信州の成功企業を読み解く—」(信濃毎日新聞社)など。2017年10月より第3代地域活性化学会会長に就任。北海道から沖縄まで、全国の地域活性化支援に取り組んでいる。



ミラノ万博日本館
EXPO 2015 MILANO
JAPAN PAVILION

ACCESS

